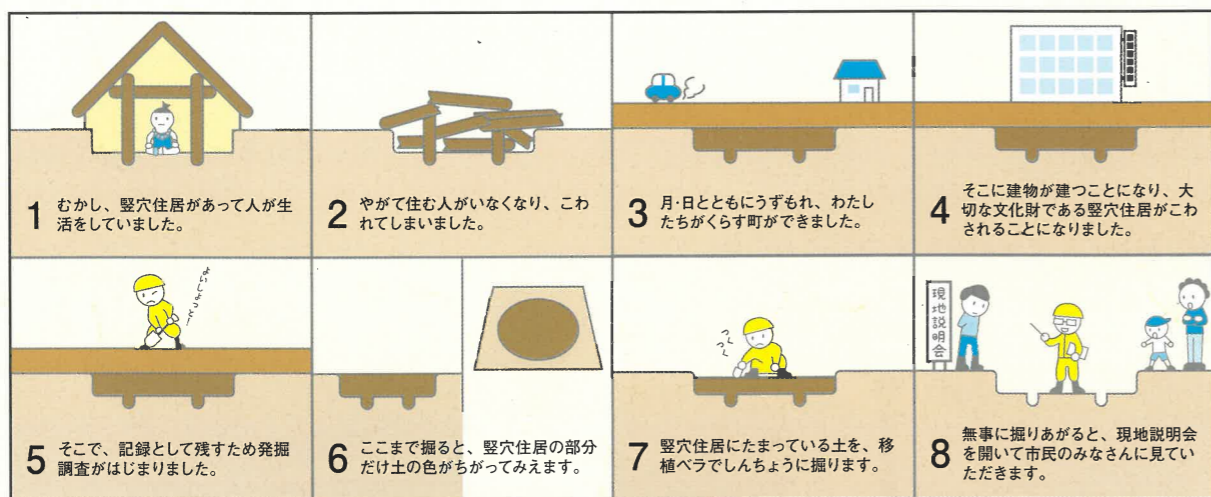


今回取り上げた伊達政宗関連の遺跡・文化財 MAP



- ①北目城跡
- ②仙台城跡
- ③若林城跡
- ④経ヶ峯伊達家墓所
- ⑤大崎八幡宮
- ⑥陸奥国分寺薬師堂

発掘調査の流れ



実際の発掘調査の流れ



手前の土の色が濃く見えるヨ

文化財課キャラクター ヨヘケン



丁寧に土を削っていくと



竪穴住居の隅に土器が並べられていたものと考えられます。



奥州仙台城絵図(正保2年/1645)
(仙台市博物館蔵)

文化財パンフレット第73集
-伊達政宗公生誕450年記念-

政宗と発掘調査



はじめに

仙台には約780の遺跡があります。これまでの長きにわたり各遺跡の発掘調査が行われてきました。ひとつの調査成果が、ある時は文献などの資料を裏付ける事実となり、またある時はそれを覆し、そしてまたある時はさらに謎を深めました。

平成29年は、伊達政宗公生誕450年の記念の年です。この度、仙台城跡をはじめとした、政宗ゆかりの地での発掘調査の成果について、発掘調査担当者の声を交えながらまとめました。発掘調査当時、どのような発見があり、またそこから担当者は政宗のどのような姿を感じたのでしょうか。

【政宗の生涯 略年表】

元号(年)	西暦	主な出来事
永禄10	1567	8月3日、米沢城で生まれる 幼名は梵天丸
天正5	1577	元服して藤次郎政宗と名のる → ①
〳7	1579	田村氏の娘愛姫と結婚する
〳9	1581	初陣で相馬氏と戦う(15歳)
〳12	1584	伊達家の17代当主となる(18歳)
〳13	1585	父の輝宗が殺される 人取橋で蘆名・佐竹連合軍と戦う
〳17	1589	摺上原の戦いで蘆名氏を破る
〳18	1590	小田原攻めへ参陣、豊臣秀吉に服従する(24歳) 豊臣秀吉が全国を統一する
〳19	1591	米沢から岩出山に移る
文禄2	1593	文禄の役(27歳) → ②
慶長5	1600	関ヶ原の戦いが起こる 7月北目城に入り、白石城の上杉軍と戦う 12月仙台城の縄張りを開始 「千代」を「仙台」と改める(仙台開府)
〳7	1602	仙台城が一応の完成を見る(36歳)
〳12	1607	大崎八幡宮、陸奥国分寺薬師堂が完成する
〳14	1609	松島の瑞巖寺が完成する
〳15	1610	仙台城本丸大広間が完成する
〳18	1613	遣欧使節団を派遣する(47歳) → ③
〳20	1615	3月長男の秀宗が宇和島(愛媛県)に入る 5月大坂夏の陣で、徳川家康に従って戦う
寛永3	1626	従三位権中納言に任ぜられる → ④
〳5	1628	若林城に移る
〳13	1636	5月24日江戸で死去(70歳)
〳14	1637	経ヶ峯に瑞鳳殿が造営される

政宗の生涯



仙台のまちを見下ろす伊達政宗騎馬像。この姿は37歳の政宗で、仙台城に入城した勇姿をあらわしています。実はこの騎馬像の台座には4枚のレリーフがあり、そこには時代ごとの政宗の姿がみられます。



*歴史上の人物を扱う視点から、敬称略としています。
 *表中の()内は政宗の年齢。年齢は数え年(生まれた年を1歳として数える年齢)で記載しています。
 *太字は伊達政宗が仙台を拠点とした期間を表す。
 *太字は今回取り上げる遺跡や文化財、青字は日本の主なできごとを表す。

北目城跡

関ヶ原の戦いに備え、政宗が拠点とした城

太白区郡山字北目宅地から郡山4丁目にかけて位置し、広瀬川の自然堤防の上に立地する室町時代から江戸時代初期にかけての平城跡です。政宗が慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いの時に本陣とした城で、仙台城の完成までの間、拠点とした場所です。



南の上空から見た北目城跡の全景 (平成4年撮影)

政宗の時代に掘られた障子堀の発見!

平成3年から行われた調査によって、堀底からは、高さが1.2mにもなる「障子」と呼ばれる畝状の障壁が見つかっています。戦国時代に特有の「障子堀」を政宗は巧みに取り入れ、城の防御に役立てたと考えられます。



北目城跡の障子堀



漆器椀 蓋 (三引両文・波千鳥文)



脇差



虹梁

調査担当者の声

政宗以前の時代のものとは明らかに異なる、幅10数m規模の堀が見つかって驚きました。堀の規模、堀底の防御施設など、まさに戦国時代に特有のものがありました。交通の要所である北目の地に、想定を超える大規模な城館が築かれたことが分かりました。

調査を担当した
金森 安孝さん



仙台城跡

政宗が築いた壮大な山城

仙台城は初代仙台藩主政宗によって慶長6年(1601)から普請が開始されました。仙台城は自然の地形を利用した城郭で、地形にあわせて本丸、二の丸、三の丸(東丸)などの曲輪を配置しています。



仙台城跡を東から見た写真

仙台城跡は、日本を代表する城跡として平成15年(2003)に国の史跡に指定されました。御裏林は貴重な自然が残ることから、昭和47年(1972)に国の天然記念物「青葉山」に指定されています。

豪華に彩られた本丸大広間

大広間は、藩主と家臣の対面や、儀式などを行う重要な建物です。大広間跡の発掘調査では、金メッキされた金銅金具(飾り金具)が出土しました。建物の内外を豪華に装飾していたとみられます。



大広間跡発掘調査のようす(平成13年)



金銅金具

調査担当者の声

初めて仙台城跡の調査を担当して驚いたのは、400年も前に建てられた大広間の痕跡が、現在の地面から20~30cmという浅いところにはっきりと残っていたことでした。自ら土を掘り下げて、巨大な建物を支えるための大きな柱穴や、建物を飾っていた金具を発見する度に、とても感動したことを覚えています。



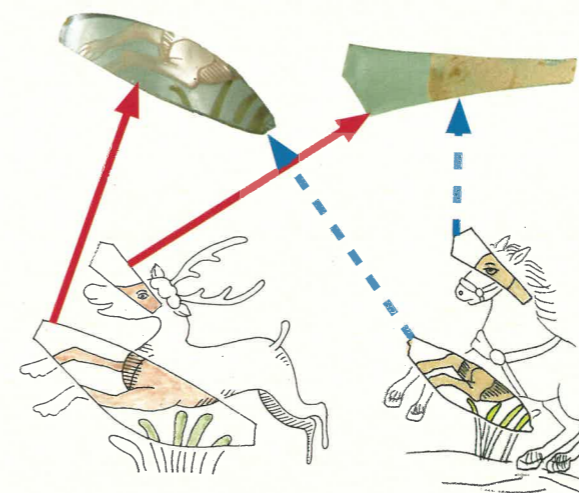
調査を担当した
鈴木 隆さん

海外との交流の品々

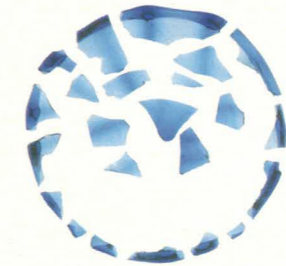
平成9年度(1997)~平成15年度(2003)の石垣修復工事に伴う本丸の発掘調査では、日本各地で生産された陶磁器に加え、中国産陶磁器や当時としては大変貴重なヨーロッパ産のガラス器の破片など海外との交流を示す遺物も出土しました。



出土した中国産の陶磁器片



エナメル彩のガラス片 2種類の想定復元図



青ガラスモール鉢片



復元参考品

政宗はかなりの風流人

政宗は武芸に秀でていたことに加え、和歌や能、茶の湯なども得意としていたといわれます。当時は将軍や他の大名と付き合うために必要な教養でした。本丸跡では、茶事の際に手を清めるための「つくばい」と推定される遺構が見つっています。また、三の丸跡では茶室と推定される遺構、茶事で使われる水指、向付などの陶磁器が出土しています。



つくばい遺構(本丸跡)



つくばい使用例(想像図)



みのいが
美濃伊賀水指

若林城跡

政宗が晩年を過ごした城

若林城は、政宗が寛永5年(1628)に造営し、寛永13年(1636)までの約8年間の居城です。幅約25mの堀と高さ5m以上の土塁を周囲に巡らした平城で、城の規模は東西約420m、南北約350mです。政宗の死後、遺言により城は廃され、その後は藩の薬園となりました。

明治12年(1879)には宮城集治監(現在の宮城刑務所)が設置されました。



上空から見た若林城跡(昭和59年撮影)

正確に配置された御殿建物跡

宮城刑務所の全体的な建て替え工事に伴って平成16年に行われた調査以降、10棟以上の礎石建物跡が見つかり、建物跡の周囲には雨落ち溝跡や石敷遺構、池跡などの施設も発見されました。建物跡は表御殿の建物群とみられ、柱間や周囲の建物との間隔はどれも6尺5寸(197cm)を基準に配置されており、正確な測量に基づいて計画的に配置されたことがうかがえます。



調査から見える建物の痕跡(白い丸で示したものが柱跡)



使用された時期が特定でき、当時の生活を知る貴重な資料となる遺物
(左: 織部皿 右: 花菱文滴水瓦)

調査担当者の声

若林城は、江戸時代初期の短い期間での使用のため大きな建替えが行われなかった城です。そのため、この場所で見つかる建物跡などはその時代だけのものであり、政宗の晩年の暮らしぶりや考えを知ることができる貴重な発見がある場所だと考えています。



調査を担当した
佐藤 淳さん

経ヶ峯伊達家墓所

政宗が眠る瑞鳳殿

経ヶ峯は青葉山の段丘上に位置し、茂ヶ崎の大年寺とともに歴代伊達家の墓所となっています。経ヶ峯には、政宗の瑞鳳殿、2代忠宗の感仙殿、3代綱宗の善応殿のほか伊達家にゆかりのある人々が眠っています。



南の上空からみた経ヶ峯伊達家墓所の全景

多才な政宗の姿

発掘調査によって瑞鳳殿の地下には凝灰岩で造られた石室が見つかりました。

石室からは太刀、具足、文具箱や筆などの文具、ヨーロッパ伝来と思われる金製のブローチや銀製の服飾品なども一緒に見つかりました。政宗が武芸、文化だけでなく広い世界と関わりをもった人物であったことがわかります。



瑞鳳殿から見つかったもの
左: 金製ブローチ 右: 蒔絵箱
(仙台市博物館蔵)

調査担当者の声

(感仙殿・善応殿)

経ヶ峯伊達家墓所の調査で、特に驚いたことは政宗、忠宗、綱宗それぞれに埋葬の仕方に違いがあったことです。また、忠宗、綱宗と比べ、政宗の眠る石室には豪華なものが多く見られ、政宗の人物像が表れているように感じました。



調査を担当した
長島 栄一さん